

第107号 通巻19巻第4号  
1999年11月1日 発行

守山市立埋蔵文化財センター  
電話・FAX 077-585-4397

☎524-0212  
守山市服部町2250番地

### 播磨田城遺跡で土偶が出土

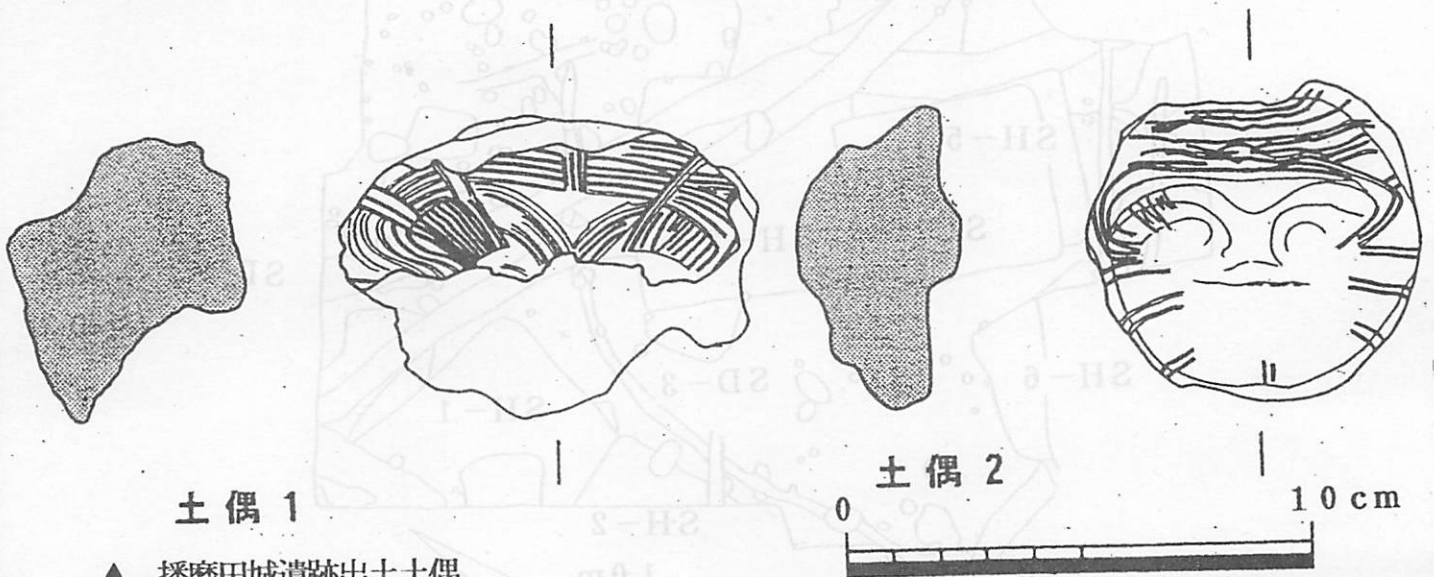
前回、乙貞105号で播磨田城遺跡から縄文時代晩期の川跡が見つかったことを報告しました。その後の調査によって、市内では初めて縄文時代の土偶が2点出土しました。土偶は、壊された状態で出土することが多く、播磨田城遺跡で出土した2つの土偶も、頭部だけがみつかりました。

土偶1は、顔面の下半分はありませんが、眉と額の部分が残っていました。顔には細かな沈線で装飾を施していて、全体にベンガラが塗られていました。残っている部分の大きさは、幅9cm、高さ6.5cm、厚さ4.8cmをはかります。

土偶2は頭頂部の一部が欠けた状態で、顔面は比較的良好に残っていました。眉と鼻の部分は粘土を隆起させて表現していますが、目と口は省略しています。この土偶にも額や頬の部分に細かい沈線が施され、ベンガラが塗られています。幅、7.2cm、高さ6.9cm、厚さ3.5cmほどの大きさです。

これらの土偶の線刻は、イレズミを表現しているといわれていて、黥面土偶と呼ばれています。これまで、山梨や東海地方、岐阜県など東日本に、このような特徴をもつ土偶が多く出土しています。今回の出土によって、東日本の地域と滋賀県が縄文時代晩期に交流していたことが伺えます。

この土偶が出土した河道あるいは沼状の落ち込みからは、多くの植物遺体が出土しています。ここからは、イチイガシやオニグルミ、トチなどが出土していますが、すべて食用の植物遺体です。これらのことからこの場所は、木の実を加工したり保存する場所ではないかと考えています。(知本)



▲ 播磨田城遺跡出土土偶

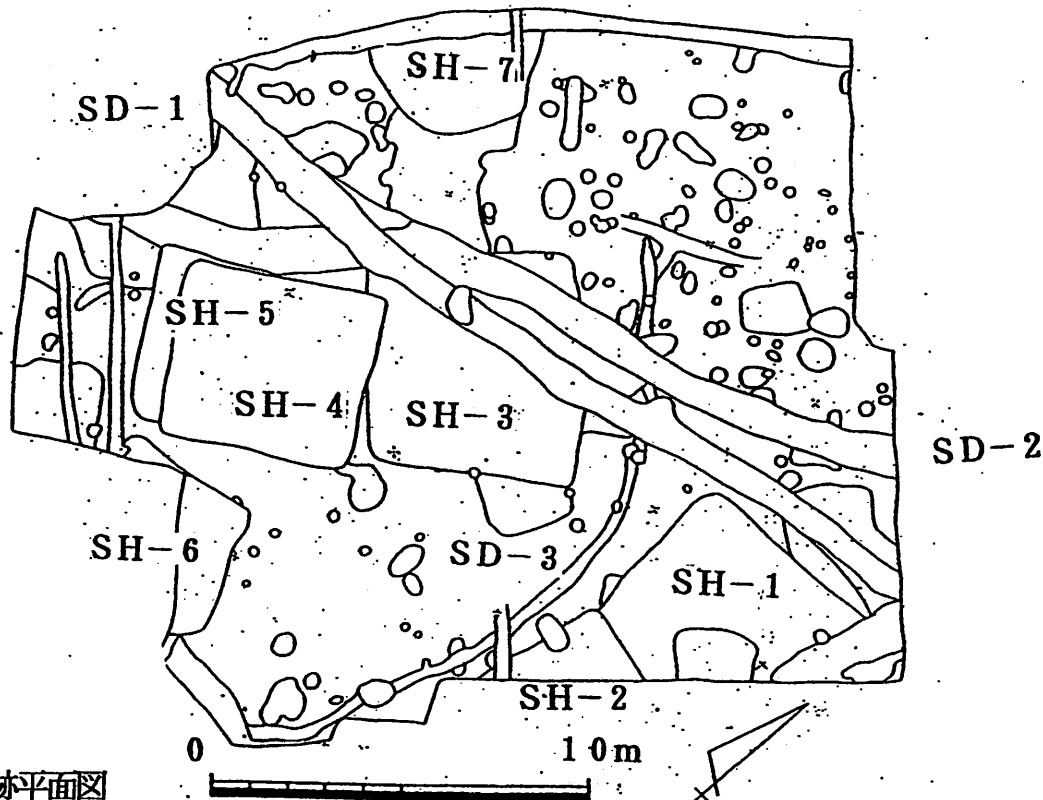
## 伊勢遺跡の調査 (第5-9次調査) (60次)

阿村町162番地の水田地において、10月中旬から約400㎡を対象に確認調査を実施しました。調査地は、伊勢遺跡の中心部で見ついている方形区画の東側にあたります。昨年12月に実施した確認調査で楼閣とみられる建物跡が検出されましたが、その南側の調査となります。

調査の結果、竪穴住居7棟以上、溝3条のほか、多数の柱穴を検出しました。SD-1は、東西方向に直線的にのびる溝で、灰褐色の砂質土の堆積が認められ古墳時代の溝と思われます。SD-2は、北東から南西方向にクランク状にのびる溝で、弥生時代後期と考えられます。この溝は、大型建物群が焼絶した直後、現在の土地区画の方向に沿ってコの字状に区画する溝で、その規模は南北約90m、東西115mと推定されます。この溝の中には、一辺が9mを測る大型の竪穴住居がいくつも検出されています。今後の調査によって、この時期の大型建物が発見される可能性もあります。

竪穴住居は一辺6~7m程の中型のもので、少なくとも7棟以上存在すると思われます。いずれも弥生時代後期と推定されます。これらの遺構に切られて、半径約10m程の弧状に巡る溝(SD-3)を検出しています。黒褐色粘質土の堆積が認められ、弥生時代後期の土器が出土しています。この溝の内側からは竪穴住居が5棟みつっていますが、これらの住居に伴う溝か、竪穴住居によって切られた遺構が存在するのか今回の調査ではわかりませんでした。溝の東辺は南北方向に直線的にのびていて、楼閣など大型建物の軸線に一致することから、この溝が大型建物群にかかわる施設に伴うものである可能性もあります。

このほか、多数の柱穴が検出されましたが、建物を想定するにはいたりませんでした。今後の確認調査は中心部のさらに東側および、北側で実施する予定です。(伴野)



守山の<sup>こあざな</sup>小字名を考える -その1-

守山市内には、土地の名前（小字名）がたくさん残っています。その中には、古い歴史的な意味を残す名称が残っているところがあります。昭和50年頃に記載された地図の中にも、寺社や城跡を推測させる小字があるほか、古墳があったのではと思われる名称もあります。以下、市内各町ごとに古そうな地名をあげて何に由来する名前なのか、考えてみようと思います。

- |     |   |
|-----|---|
| 今浜  | 中塚・えり役場・大坪・浄土田                              |
| 小浜  | 四の坪・五の坪・六の坪・三十六・十八・十二                       |
| 洲本  | 禪寺・練塚・十一ノ坪                                  |
| 水保  | 七の坪・虎ノ坪・九の坪・十三・十四・十五・十九・二十・二十五・十六・堂の西       |
| 幸津川 | 十四・十五・二十・下二十・十五・八反田・三十二・三十四・三十五・二ノ坪・四の坪・九の坪 |
| 立田  | 上堂前・下堂前・薬師・下蔵作                              |
| 服部  | 下金塚・上金塚・金塚・別所・下別所・上別所・中五反田・下五反田             |
| 新庄  | 大塚・八の坪・三十二・殿作・烏帽子袋                          |
| 矢島  | 社田・十ヶ坪・薬師                                   |
| 播磨田 | 箸塚・屋敷田・唐鋤・塚本・蔵立・大和・塚越・東坊・二ノ坪・三ノ坪・四の坪・八ノ坪    |
|     | 上北川原塚・上川原塚・猪塚・浅墓・新堂・上左城・中左城・下左城・塚ノ越・大塚・古城・下 |
|     | 六ノ坪・一ノ坪・二ノ坪・七ノ坪・十三・石塚・一ノ坪・二ノ坪・三ノ坪・四ノ坪・五ノ坪・堂 |
|     | 前・上酒寺・下酒寺                                   |
| 笠原  | 下塚越・上塚越                                     |
| 小島  | 六の坪・長塚・一の坪・下灰原・中灰原・三ノ坪・乙ノ塚                  |
| 今市  | 新屋敷   |
| 中川  | 堂西・堂南                                       |
| 田江  | 毘沙門堂・堂の後                                    |
| 杉江  | 上大塚・下大塚・新屋敷                                 |
| 欲賀  | 灰塚・北大塚・票塚・八ノ坪・滋賀寺・大蔵・冬塚                     |
| 森川  | 十九・九ノ田                                      |
| 赤野  | 一ノ坪・二ノ坪・狐塚・一ノ坪・三ノ坪・四ノ坪・十ヶ坪                  |
| 井郷  | 下西間塚・西間塚                                    |
| 守山  | 五反田・堂ノ前・堂の内・堂の腰・堂ノ後・下刈間塚                    |
| 金森  | 赤塚・仁願寺・塚越・城ノ下・石ノ塔・灰塚                        |
| 古高  | 東屋敷・西屋敷・新屋敷・北塚之越・南塚之越・狐塚・西松塚・東松塚・上ガ塚        |
| 今宿  | 島屋塚   |
| 勝部  | 松塚・城ノ塚・平田街道・平田街道下・上平田街道・上鹿塚・下鹿塚             |
| 浮気  | 松塚・塚越・南角街道                                  |
| 吉身  | 泉海道・堂ノ北原・小領・百々羅堂・小性寺                        |
| 立人  | 吉身街道・大塚                                     |
| 阿村  | 東長塚・寺前・宮ノ後・堂ノ前                              |

以上の名前を挙げてみましたが、最近になって消え去っているものもあるように思われます。名称の由来については、数字の名前のほとんどが<sup>じょうりせいど</sup>条里制度によってつけられた名前だと考えられます。条里制では、一町四方（およそ108m四方）を坪と呼びますが、播磨田町や幸津川町ではその数字が複数の場所で確認されます。また、その数字の最高は三十六です。土地を六町毎に区切り、南北に<sup>じょう</sup>条・東西に<sup>り</sup>里と呼びますが、それを更に小さく区切り、<sup>坪</sup>坪の名前をつけていきます。この名前が付けられた時代としては、中洲では服部遺跡で奈良時代以降、守山・小津学区では鎌倉時代以降（古高遺跡や欲賀遺跡など）、河西（長塚遺跡）では平安時代以降など、市内各所で条里制度の<sup>ちり</sup>地割りが行われた時代が、少しずつ違っていることがわかっています。このため、一概には断定できませんが、鎌倉時代以前に遡る可能性の高い名前であると考えられます。また、○塚とあるのは、そのほとんどが昔の墓地を指していると考えられます。最近、勝部町の松塚と

いう所を発掘調査したところ、古墳の跡が見つかりました。また、浮気町にも松塚という小字が残っていますが、ここからは埴輪が多量に出土しています。市内では庭塚・狐塚など、古墳に付けられた小字があり、〇〇塚という小字が残る場所を発掘調査すれば、古墳などが新たに発見される可能性があります。(山崎)

守山の小字を考える -その2-

今浜 小浜 水保 服部 赤野井 欲賀 石田 立入 三宅 矢島 川田	新川・新川川中・北川 堤下・足田 蓮原 西川原・下西川原・川原口・堤下 中ノ島・古宮・上浮気・中浮気・下浮気 大宮・道布ヶ池 高畑 川原・裏川原・樋越堤外・出庭道・流入 高畑 西岸・新田・戸崎・大えり・江口・畑田・早川 北川原・柳島・下柳島・小川原・蓮根田・山中・下替場・川原田	幸津川 木浜 洲本 新庄 杉江 大林 下之郷 金森 笠原	蒲原・出葎・道原・小津樋・増水・川原 中岸・樋口 砂川・川原口・川原・藪原 北川原・前堤・堤谷・石堤 芦刈・南江口 北拓・西拓 平川端 川原・川向・新水 小川原・今川原・大藪・河中
---	---	--	--

以上、土地の特徴を示すと考えられる名前を列挙してみました。全体を点検したつもりですが、漏れている可能性もあります。土地改良(ほ場整備工事)で消滅した名前があり、現在は残っていないものもあるでしょう。明らかにその土地の由来を示すものとして、川原・堤下など野洲川のすぐ近くの場所を示す名前があります。また、藪や池があったことや芦や蓮、蒲などが生えていた場所を示す名前もあります。上にあげた名前の中で、川原など川の流れに関係する名前で興味のある傾向がみられます。それは、中洲や河西、速野など現在の野洲川に近い地域に多く、小津・玉津・守山などにはほとんど見られないことです。つまり、この名前が野洲川の強い影響下にあったところに付けられたことを示しています。守山の南部には、古い野洲川が流れていたといわれる境川がありますが、主として奈良時代以前であったと言われています。また、現在の南・北流は室町時代以降に形成されたといわれますので、これらの名前はそれ以降に付けられた可能性が高いこととなります。

土地の名前には、歴史的・地理的な名前が数多く残っていて、調べるとその由来が分かることもありますので、記録し保存する必要があります。皆さんがお住まいになっている自治会には、明治初めの貴重な「地籍図」という絵図が保存されています。これを詳しく調べ現在の地図と比較すると、また違った興味ある事実が分かってくる可能性があります。(山崎)

平成11年度 秋季特別展のご案内

守山市立埋蔵文化財センターでは、秋季特別展「よみがえれ弥生一人・ムラ・技術・環境」を下記の通り開催いたします。多数、ご参加下さるようご案内申し上げます。

平成11年10月30日(土)	～	11月15日(月)	展示会場	守山市立埋蔵文化財センター
平成11年11月19日(金)	～	11月23日(祝)	展示会場	すこやかセンター(福祉保健センター)
講演会	日時	平成11年11月21日(日)	午後1時30分～	
	講師	佐原 真	(国立歴史民俗博物館館長)	
	場所	「稲・戦い・ムラ・クニ	—守山の弥生時代—	
		すこやかセンター講習室	JR守山駅より近江バス(小浜行)小児保健医療センター下車	